

能「月宮殿」の子方、鶴と亀

大島泰子

二七〇回大島定期公演（四月十七日）にて、能「月宮殿」（作者不明）と能「藤戸」（作・世阿弥）が上演されました。泰平の世を寿ぐ豪華絢爛な月宮殿・・・美しい狩衣に美しいハコビ・・・息子を殺された母の深い悲しみと憤り、力強い謡と能囃子が胸に迫る・・・およそ六五〇年も前によくぞ、このような作品が出来、今まさに不変のテーマとして舞台上に蘇る・・・観阿弥、世阿弥の凄さに改めて、敬服。そして、その時代時代でしっかりと伝えてきてくださった多くの先人達に感謝です。

しばし、コロナ禍もロシアのウクライナ侵攻も物価高も電力不足もこの世の負を全て払拭させてくれました。

また、今回の舞台はオマケ付でした。子方二名がおめでたい鶴と亀のお役で、お囃子に合わせて舞を舞います。二人の力量が揃って、お囃子に合わせて舞を舞う。なかなかの大役です。次の時代を担ってくれる若き能楽師養成の貴重な晴れ舞台なのです。

参考までに、能「月宮殿」の大島家の演能記録を文末に記し



270回大島定期公演

能「月宮殿」

2022年4月17日

シテ 狩野了一

亀 荒木七海

鶴 狩野直奈

太鼓 梶谷英樹

大鼓 原岡一之

小鼓 飯田清一

笛 左鴻泰弘

てみました。高校生と中学生になった薫子と伊織も五年前に鶴亀を務めました。ついこの前の事のようにです。

過去四回の舞台では二、三才違いの姉弟での競演でしたが、今回は遠く熊本と福山に離れて暮らす狩野家と大島家の孫たち・・・

お互いに遠路福山へ、熊本へ、往復しての稽古。その練習不足を補うすべは・・・コロナ禍で一挙に進んだりモートでのお稽古を重ねて、本番となりました。

当日の両名の舞台は、それはそれは可愛い大人顔負けの立派な舞姿でした！

指導した者（衣恵）も一安心で疲れも吹っ飛んだことでしょう。

その夜、仏壇に向かって無事に終わったことを報告すると、養父大島久見の声が聞こえてくるようでした。

『輝久！ 稽古！！』

『衣ちゃん！ 文ちゃん！ ノンちゃん！ 稽古！』

あなたが鍛えてくださった若い者たちは、あなたの教えを守り、頑張っています。

令和四年（2022）六月 記

能「月宮殿」 大島家関係の演能記録

開催年月日	催し名	シテ	鶴	亀
1983年11月20日	大島定期公演別会	友枝喜久夫	大島衣恵	大島輝久
2001年11月17日	広島平和能楽祭	栗谷菊生	大島文恵	大島紀恵
2011年4月17日	224回 大島定期公演	金子匡一	金子龍晟	金子天晟
2017年4月30日	250回記念 大島定期公演	大島政允	大島薫子	大島伊織
2022年4月17日	福山城築城400年 記念 大島定期公演	狩野了一	狩野直奈	荒木七海